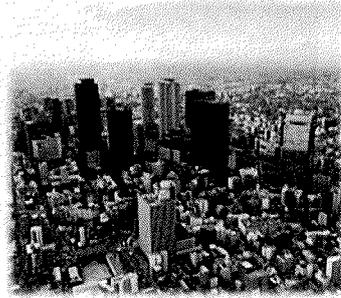


# 伏見・栄地区における 帰宅困難者対策について (大規模地震時)

名古屋市防災危機管理局  
危機対策室

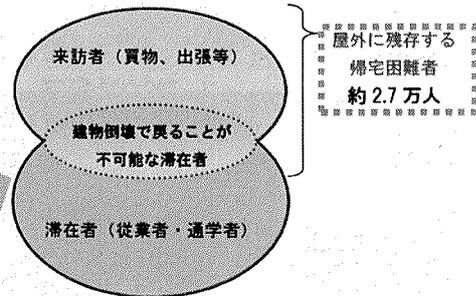


## 大規模地震が起きると、伏見・栄地区で何が起きるのか？

- 地下鉄、在来線等、公共交通機関が停止し、行き場の無い帰宅困難者が街にあふれる。
- 特に、日中であれば従業者や出張者、買い物客、夜間であれば飲食客などが多い。

◆伏見・栄地区の特性  
伏見駅・栄駅等を有し1日の乗降客数が合計約51万人である名古屋都市圏の中心的地域  
・夜間人口 - 約0.6万人  
・従業者数 - 約18.0万人

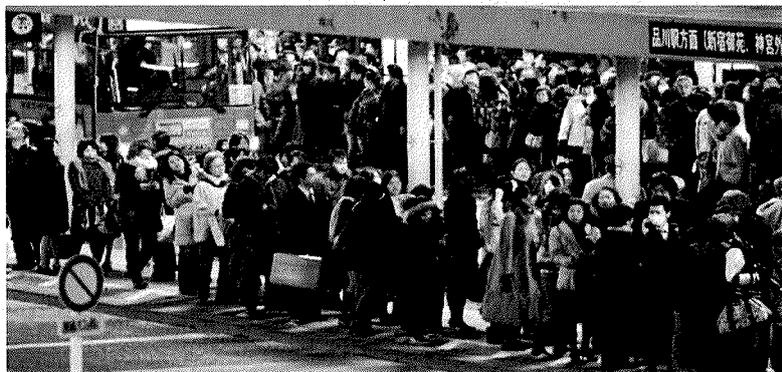
◆伏見・栄地区の潜在者・来訪者  
(最大：平日13時)の推計数  
約14.6万人



令和4年3月に、「伏見・栄地区都市再生安全確保計画」を策定し、帰宅困難者対策を推進

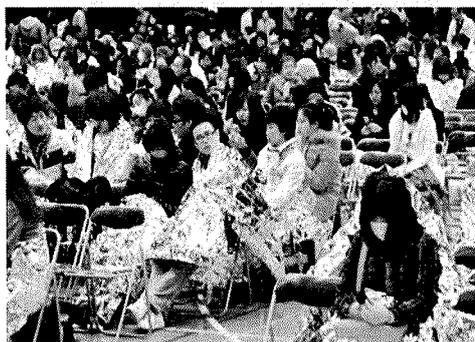
## 東日本大震災発災時の首都圏

- ◆ 首都圏の鉄道のほぼすべてが運転を見合わせ
- ◆ 地震の影響により、各所で渋滞が発生

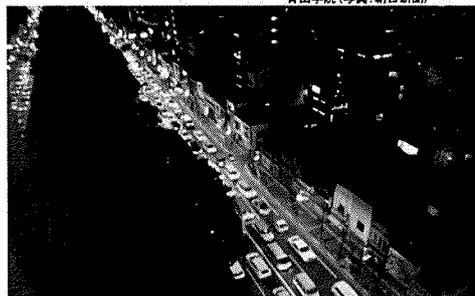


東京駅の様子

帰宅困難者が大量に発生し首都圏が大混乱



青山学院 (写真:朝日新聞)



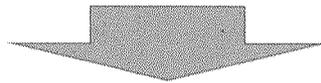
本郷通りの渋滞の様子



新宿駅 (写真:産経新聞)

## 帰宅困難者対策の原則

- ✓ 駅周辺などに大勢の人が集中することによる群集なだれの発生
- ✓ 帰宅を急ぐ人や車で道路が混雑し、救急車や消防車の通行障害に
- ✓ 帰宅途上の余震による建物倒壊や、沿道建物からの落下物による負傷



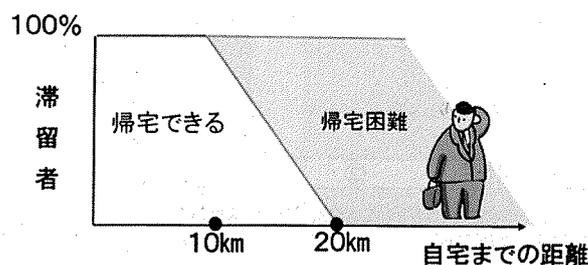
大地震時は、むやみに移動を開始しない、  
安全な場所に留まることが重要！  
【一斉帰宅の抑制】

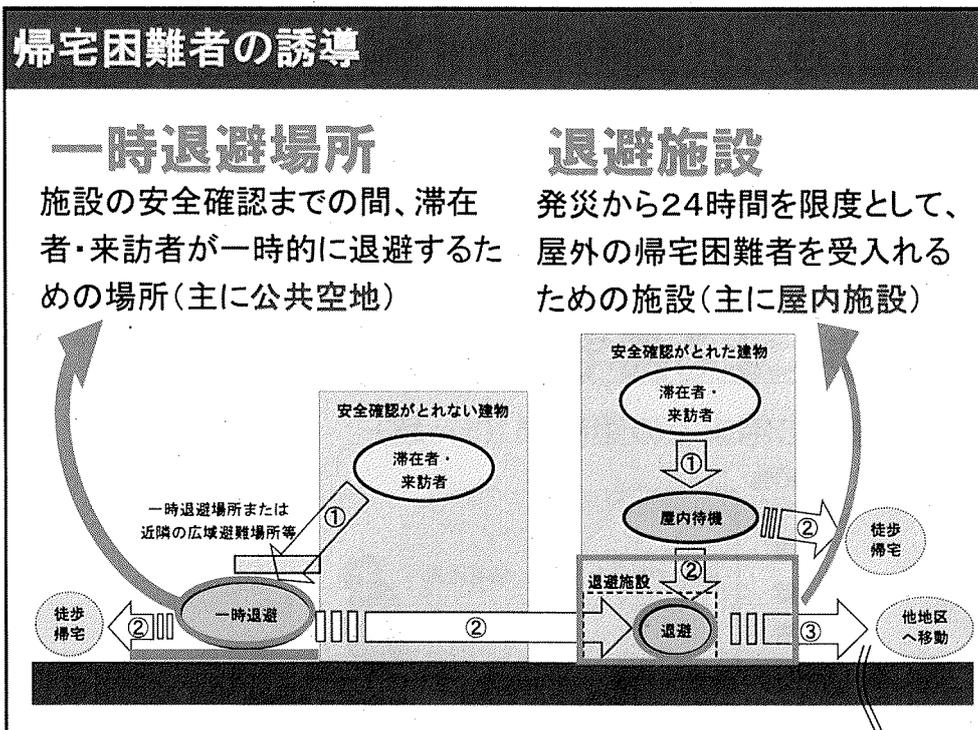
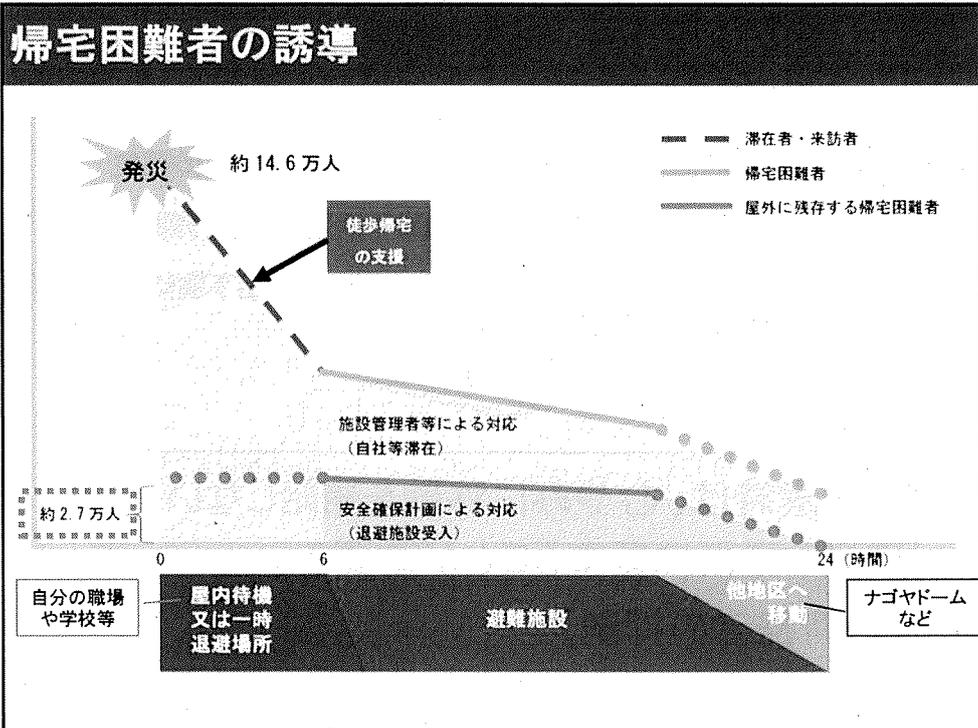
## 帰宅困難者とは

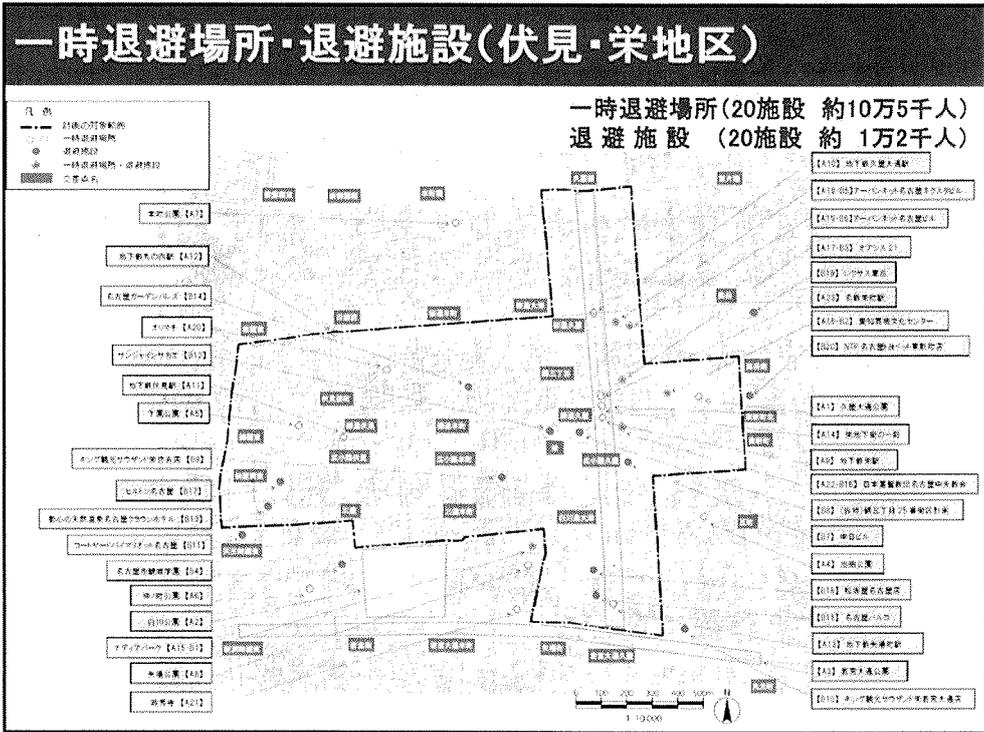
### 帰宅困難者とは・・・

災害時に外出している人のうち、  
自宅までの距離が遠く、  
**徒歩による帰宅が困難な人**

(定義：自宅までの距離が10km超)







## 「退避施設」の確保に向けて、 民間事業者の協力が必要です。

- これまで退避施設への指定を進めていますが、想定される帰宅困難者を受け入れるには、現状で大きく不足しています。
- このため、官民連携して、災害時における街の利用者の安全を確保するため、民間事業者に退避施設の確保の協力をお願いしています。
- 協力をご検討いただける事業者の方は、防災危機管理局（☎972-3526）までお問い合わせください。
- なお、名古屋市では、帰宅困難者を受け入れていただける施設において、帰宅困難者用の備蓄物資の配備を行っています。

## 備蓄物資の確保

伏見・栄地区で想定される約2.7万人分の備蓄物資を、退避施設などに分散備蓄している。

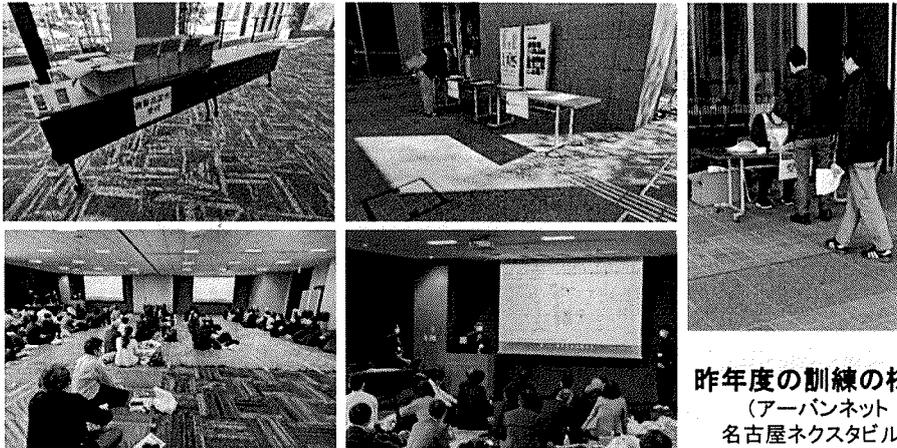
### 《備蓄物資と量》

品目	品目詳細	帰宅困難者 一人あたりの量
飲料水	7年保存水	500mlペットボトル 1本
食糧	7年保存 ビスケット	1食
保温 シート	アルミシート	1枚
トイレ	簡易パック式 トイレ	4回分



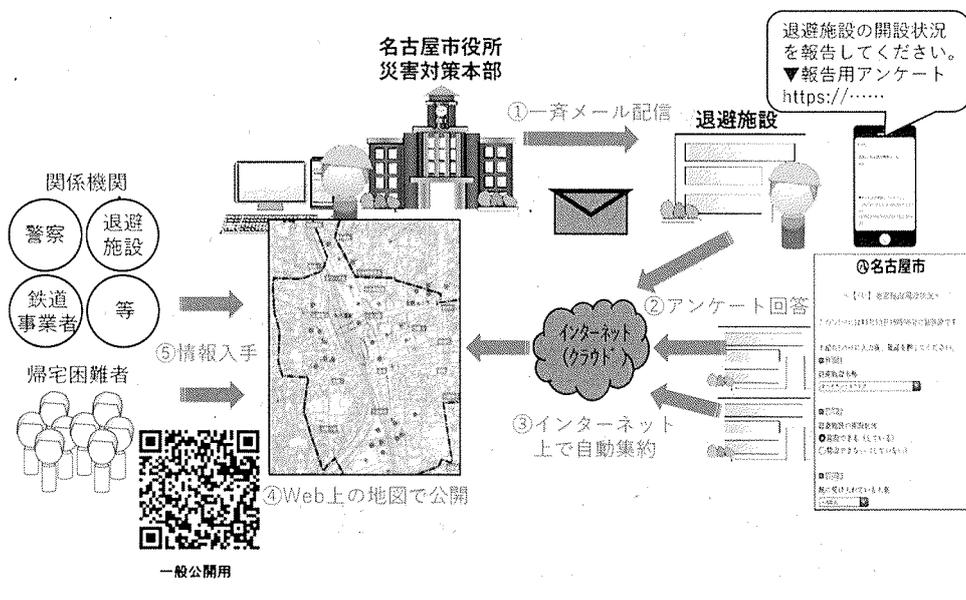
## 帰宅困難者対策訓練の実施

発災時を想定して、情報伝達、退避施設の開設・運営を模擬的に行うなどの訓練を毎年度実施



昨年度の訓練の様子  
(アーバンネット  
名古屋ネクスタビル)

## 帰宅困難者対策情報共有システム



## デジタルサイネージの活用

サイネージ等を活用し、地震発生後の案内メッセージや、市の帰宅困難者支援サイトのQRコードをサイネージに表示することで、来訪者に情報を伝達する。



栄クリスタル広場

### 災害情報

このQRコードから情報が確認できます

Scan the QR code and check for disaster information.



名古屋市公式ウェブサイト  
帰宅困難者支援サイト  
City of Nagoya Official Website  
Page for Stranded Persons

防災情報・公共交通機関情報・避難情報など  
Information on Earthquake,  
Public Transportation, Flood, Earthquake

名古屋市

サイネージ表示映像(イメージ)

## 帰宅困難時における行動のポイント

### 発災前

～職場や学校での待機、徒歩帰宅に備える～

- ①職場や通学バッグに備える
  - ・スマートフォンのモバイルバッテリー
  - ・スニーカー
  - ・地図、地図アプリ
  - ・携帯ラジオ、ラジオアプリ
  - ・飲み物やおやつ
  - ・季節に応じたアイテム(カイロやタオル)
- ②家族で災害時の行動を確認する
  - ・安否確認の方法
  - ・災害時の集合場所

### 発災後

～安全を確保して歩いて帰る～

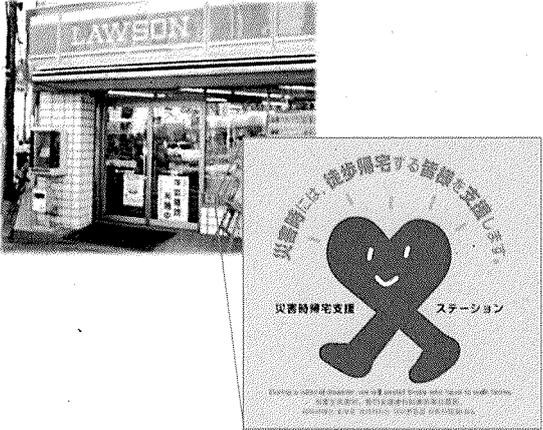
- ①まずは地震の揺れから身を守る
- ②むやみに移動しない  
(職場や学校に待機)
- ③落ち着いて情報収集・状況確認
- ④帰宅困難者のための施設を活用
  - ・一時退避場所
  - ・退避施設
  - ・徒歩帰宅支援ステーション

## 徒歩帰宅支援ステーション

徒歩で帰宅する方への支援として、「水道水」「トイレ」「帰宅可能な道路情報」等のサービスを提供する施設

**協定締結事業者**

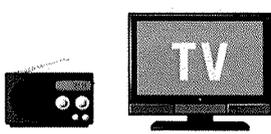
- ・ローソン
- ・ファミリーマート
- ・セブンイレブン
- ・ガソリンスタンド
- ・日本郵便
- ・中日新聞販売店
- ・吉野家
- ・壺番屋 など



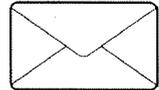
災害時には、徒歩帰宅する皆様を支援します  
災害時帰宅支援ステーション

## 名古屋市からの情報伝達

テレビ(データ放送、Lアラート等)・ラジオ



メールサービス



防災スピーカー(同報無線)、同報無線テレホンサービス、名古屋市防災ラジオ・ラジオアプリ



名古屋市公式HP



NICOS(名古屋市水防情報システム)



なごや減災プロジェクト



SNS(Facebook, twitter) アカウント「名古屋市防災」



広報車・消防車等



## 事業者として 地震に備えてやるべきこと

### 情報収集・伝達手段の確保

・災害情報や避難に関する情報、公共交通機関の運行状況や被害状況等について、リアルタイムに把握することが重要

・従業員等に伝えるため、受け身ではなく、情報は事業者自身で取りに行くことが重要

➡ 情報収集・  
伝達のための  
手段を確保

#### 情報収集・連絡手段の例

テレビ、ラジオ、  
インターネット

災害に強い通信手段  
(携帯型無線機、衛星  
電話など)

## 施設の安全確保

従業員等が安全に施設内にいることができるよう、  
**施設の安全確保対策**を実施する。

### 安全確保対策の例

建物の耐震性の確保

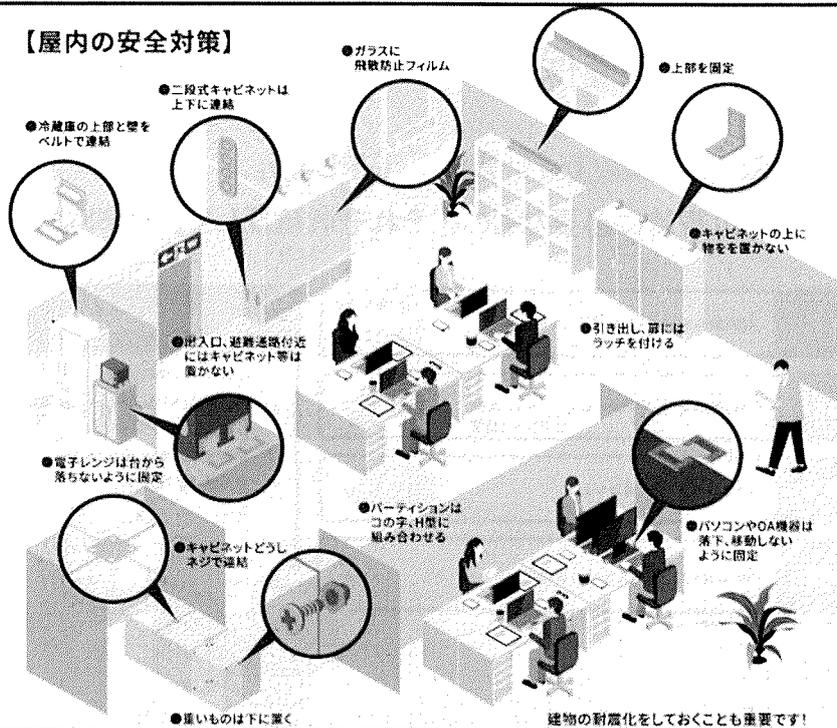
オフィス家具類の  
 転倒・落下・  
 移動防止

事務所内の  
 ガラス飛散防止

工具類の備え  
 (従業員等で設備等の応急復  
 旧に対応する場合)

非常用電源設備や  
 電池等の確保  
 (停電時への備え)

### 【屋内の安全対策】



## BCP(事業継続計画)の作成

企業や大学等において、地震等による被害の軽減や早期の復旧を果たすために、  
**平常時から被災時に必要等に必要な対応を整理し、準備・計画しておくためのBCP(事業継続計画)を策定**



※名古屋市では、BCP策定に向けた、普及啓発セミナーや専門家派遣事業を行っています。



## 備蓄物資の確保

**最低限の水・食糧・トイレを備蓄しましょう。**

このほか、災害時に必要なものをそれぞれ確認しておきましょう。

<b>水</b>	(例) 飲料水……一人1日3リットル必要	
<b>食料</b>	(例) 乾パン、クラッカー、レトルト食品、缶詰 原則3日分程度	
<b>防寒具</b>	(例) 毛布……一人当たり1枚	
<b>簡易トイレ</b>	(例) 簡易トイレ……一人当たり1日4回分	

**その他の物資**

(例) 保温シート、簡易トイレ、  
 衛生用品(トイレトペーパー等)、  
 敷物(ビニールシート等)  
 携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、  
 救急医療薬品類  
 など

※水や食料の備蓄の際には、賞味期限に留意する必要があります。